

こうじ 工事の げんば 現場より

旧矢筈原家住宅 保存修理事業

6月3週目

今はこんな様子だよ。

修理現場から
文化力
POWER OF CULTURE



茅葺屋根葺替作業に平行して、水屋や鼻小屋の「くれ板葺屋根」の葺替も今回行われています。くれ板葺屋根はくれ板が劣化腐朽してただけでなく、その下にある垂木等も一部腐朽していたため適宜修理を行い、くれ板は全面的に新しいものに葺き替えました。葺替にあたって、材料は基本的には当初の仕様と同じ杉板を用いていますが、中に銅板を葺き込んでいます。銅板は外からは見えませんが、重要な効果が見込まれます。雨が降り、くれ板の隙間から水がしみ込むと銅板が濡れ、銅イオンが発生します。銅イオンは殺菌効果が強く、板葺屋根の腐朽の原因となる苔類を繁茂させにくくする役割を果たします。銅板葺き込みの歴史は浅いですが、葺き込みによる効果が評価され、屋根の長持ちのために文化財修理でも良く用いられる手法です。



くれ板葺屋根葺替箇所

- ・水屋屋根
- ・鼻小屋屋根（南北2ヶ所）

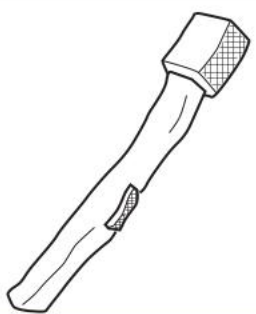


過去のお知らせはこちら

鼻小屋（南北2ヶ所）
：屋根裏通風採光の
ための開口部

水屋

かなづち （屋根かな）



檜皮葺や板葺で、屋根材を止める竹釘・金釘を叩き打つ時に使う。釘と一緒に握りこんで使うため、柄の途中にも金具がある。釘は口の中に含み、一つずつ吐き出し、屋根に打ち込んでいく。

竹くぎの打ち方

- ①口に含んだ竹釘を、尖っている方を内側にして一本ずつ口から出す。
- ②口から出した釘を、かなづちの柄と一緒に握りこみ、柄の途中の金具を使って押し込む。
- ③押し込んだ竹釘を、かなづちの上の部分で「トントン」と叩いて打ち付ける。
先端は叩き潰される



柿板制作の様子

「くれ板」とは、丸太を割り、木の目にそって木目に沿って薄く割られた板のことで、繊維の切れ目が少ないため雨に強く長持ちするとされています。くれ板を作り出す一連の作業を「クレヘギ」と呼び、これら屋根板造りの技術は、「柿板製作」という国の選定保存技術・ユネスコの無形文化遺産にも登録されている、世界に誇る日本の匠の技の一つです。